

平成13年度 「東北・北海道国際化協会 連絡協議会研修会」を開催 10月18日、19日

十勝の幕別町で開かれた同連絡協議会の研修会には(財)自治体国際化協会、東北各県及び仙台市の地域国際化協会、北海道からは北方圏センターが参加して、「国際理解教育の実践に伴う地域国際化協会の役割について」をテーマに意見を交換した。検討会では、国際理解教育を行う場合には、学校の自主性を尊重しながら地域国際化協会としては情報の蓄積や提供等の側面的な支援が大切であることが話し合われた。

検討会に先立ち早稲田大学文学部の山西優二助教授と国際協力事業団北海道国際センター(帯広)の三浦弘之前館長が基調講演を行った。山西助教授は国際理解教育の意義を確認すると

ともに、地域国際化協会は学校・地域・NGO・行政間での関係づくりなどの役割を担うことが必要であること、また三浦前館長は帯広畜産大学の留学生受入から帯広市民の国際理解がスタートしたことや、国際理解教育においては直接にふれあうことが大切であること等を話された。(総務企画部)

「ロシア極東観光 トーク・イン」 (10月5日)

平成13年度の「企業経営指導者研修生受入事業」で観光業務研修のため来道したロシアの沿海地方、ハバロフスク地方およびサハリン州の観光業に携わる企業経営者及び幹部の人たちが、それぞれの地方の観光政策や現状について発表した。札幌に本店や支店を持つ旅行代理店からの参加者は熱心に発表に聞き入り、ロシア極東やサハリン州における観光の可能性や将来性について質問をしていた。

研修最終日を迎えてのトークイン開催であったため、発表するロシア側研修生は研修の集大成をかねて発表に臨み、北海道からの観光客誘致に向けて

それぞれのメリットや得意分野などを宣伝していた。(事業部)

北見市で国際交流 団体連絡会議を開催 11月10日(土)

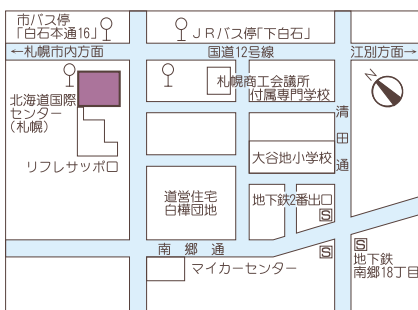
同連絡会議は、今回、「オホーツク国際フェスタ2001」の開催と併せて北見市で実施し、網走管内の国際交流団体が参加して、それぞれの活動状況や各団体間の連携などについて意見を交換した。

また、それに先だって、「オホーツク国際フェスタ2001」の基調講演として、北海道医療大学教授ハワード・ターノフ氏を講師に「地球市民国際理解講座-異文化との心のふれあい-」を開催した。ターノフ講師は、「これからの日本は外国人が増えるので、異文化を自然体で受け入れる姿勢が大切です」と強調していた。

12月1日(土)には石狩市において同様の連絡会議と、外務省の国内広報課長でNGO連絡センター長でもある宮下孝之氏を講師に迎えての地球市民国際理解講座も行なわれた。

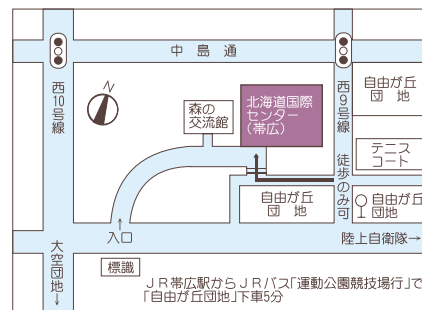
(交流部)

(北方圏センターは、国際協力事業団北海道国際センターの管理運営を委託されています)



北海道国際センター(札幌)

〒003-0026 札幌市白石区本通り16丁目南4番25号
TEL 011(866)8680 FAX 011(866)8425



北海道国際センター(帯広)

〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL 0155(35)2161 FAX 0155(35)2213

本紙の送付をご希望の方、また各地の情報やご意見など下記宛にお寄せください。

国際協力情報紙「であい」第23号

発行日・2001年12月5日

発行(社)北方圏センター 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道庁別館12階
TEL011(221)7840 FAX011(221)7845 <http://www.nrc.or.jp>

E-mail address pbl@nrc.or.jp (出版部) intc@nrc.or.jp (国際協力部)

発行者・林 敏明 印刷・株総北海